

# COOP-JOSO News Letter

【ものづくり、人づくり、地域づくり】 震災・原発事故からもうすぐ1年

## 常総生協組合員・生産者・役員が東海村に共に集って東海第2原発廃炉をアピール



東海第2原発を700人の人の鎖で囲んで廃炉をアピール

「やさとの仲間」の若手生産者たち、その先輩生産者たち、山形県白鷹町の生産者も駆けつけて組合員と共に人の鎖を

東海村・村上村長  
「常総生協組合員の皆さんからのたくさんのお手紙が私の力となり、背中を押してくれました」



### ●2012年度も残りあと1ヶ月

## 今年度中の累積欠損解消に向けて「あと一品」の利用結集をお願いします。

今年度中での累積欠損解消は、2011年度総代会で掲げた今期の大きな課題です。先週のニュースでの報告の通り、東電への損害賠償請求については今期決算に反映出来るかどうか不透明な状況で、現時点の年度末決算見通しでは累積欠損解消達成できるか「ギリギリ」の試算です。東電からの賠償金の有無に関わらず、今期での累積欠損解消を達成出来るよう、「あと一品」の利用結集へのご協力、よろしくをお願いします。(専務理事 丸山潔)

### 放射能NO!ネットワーク取手 第3回フォーラム

安全神話をふりまいて、福島原発事故を引き起こした人たちが今度は放射能汚染について、安全神話をふりまいています。私たちと子どもたちの命を自分たちの力で守るために学び、行動します



#### ■講師

大前比呂思 国立感染症研究所室長  
順天堂大学客員教授

反核医師の会のメンバーで、「放射能汚染と医師・医学者の役割」分科会の座長を務めました。

大石 光伸 常総生協副理事長  
地域の生活協同組合のリーダーとして、放射能汚染に対し安全な地域と食品を追求し、運動を広げています。

大前氏の平和へのメッセージ より  
感染症研究で訪れた主戦場のレイテ・ガダルカナル島は多くの遺族が遺骨収集に訪れる島で、滞在期間が重なった際にはお手伝いさせて頂く事がありました。国際医療協力の場にあつて日本国憲法の前文と第9条を誇りに胸を張って仕事をすることが出来ました。

常総生協  
2011年3月援助物資を被災地に届ける、4月 組合員の母乳検査を実施、6月通常総代会で「食の安全」の為脱原発を決議、8月食品の測定を開始、9月脱原発くらし見直し委員会発足、10月より常総生協活動地域の土壌を1キロメッシュで測定

## 放射能と健康

○日時 3月18日(日) 午後2時より  
○場所 取手市藤代公民館第3会議室  
○入場無料・資料代 500円

どなたでも参加できます  
藤代公民館の駐車場がいっぱいの場合には取手市藤代庁舎または県信駐車場をご利用ください  
藤代駅からは北口を出て徒歩10分です  
講演後、参加者の皆さんからのご質問にお答えします  
ぜひ、ご参加ください



### 放射能NO! ネットワーク取手

連絡先・本木洋子 0297(83)1176 小泉真理子 (82)5615 メール・toride.nt.311@gmail.com  
ブログ 放射能NO!ネットワーク取手 <http://nettoride.blog.fc2.com/>

## 3/20(火・祝) 「広瀬隆つくば講演会」

13:30~16:30 (開場13:00) つくば国際会議場 大ホール

「第二のフクシマ:東海原発で事故があれば今度こそ日本は滅亡」

【前売券のお申し込みは生協本部まで】

≪一般≫1,000円 (当日券1,300円)

≪学生・障がい者≫500円 (当日券700円)

※高校生以下は無料です。

※前売券の受け渡しは講演会当日・会場となります



【東海村 村上村長講演(2月26日茨城有機農業研究会東海村集会から)】

## 常総生協組合員からのたくさんのお手紙、一人ひとりがまさに自分の言葉で語っているお手紙でありましたが、「これはすごいぞ」と思いました。



・2月26日、東海村の村松コミュニティセンターで茨城有機農業研究会の総会が開催されました。

東電福島原発の事故によって、かけがえのない大地を汚されてしまった生産者たち、「これ以上の放射能汚染は絶対に許さない」という意志を示すために、「東海第2原発ハイロアクション」の開催に合わせて東海村での開催となりました。

県内各地の有機農業生産者とともに常総生協組合員も参加し、総勢100名あまりで「福島原発事故を考える。今と未来を生きる全ての命あるもののために」と題した村上村長の講演を聞きました。

・事故を小さく見せようとする原発業界の動き、放射能の不安を口に出来ないという「戒厳令下」のような福島の実状、東海村でもJCOの事故後ですら、原子力への疑問を呈する事が出来ない現状、こうした中で人々が自らを規制し、発言をしなくなってしまっている日本の状況と怖さを語られました。

そうした状況の中で自らの言葉で語り、行動する事の大切さを説く中で、常総生協組合員からの手紙について触れ、「今までにない新しい民主主義の風を吹いている」と語られました。

昨年11月、常総生協さんの訪問を受けました。その際、常総生協の組合員の皆さんからたくさんのお

手紙を頂戴しました。これはすごかったですね。「こんなに日本人も発言するんだなあ」、「自分の意見を言うんだなあ」というのを感じました。しかも首都圏にある守谷、取手、あるいは流山、柏の人達、特に若い女性から、たくさんの手紙をいただきました。それは一人ひとりがまさに自分の言葉で語っているお手紙でした。短い手紙でありましたが、「これはすごいぞ」と思いました。

首都圏の人たち、電気の消費者である人たちが、その電気がどこから来ているかという事はご存じなかったんだろうと思います。その人たちが電気は福島だとか、新潟から、それも原子力発電所から来ているということを初めて知ったなど。この知ったという事実、そして原発事故に関心を持ったという事実はものすごい力だと、これはよく燦原の火のようにと言いますが、まさに燦原の火のように広まっていくんじゃないかという感じを持ちました。

【昨年11月8日、組合員からの多数のメッセージを携えて村上村長さんを訪問】



組合員からのメッセージを台紙に貼って本にしてお届けしました。脱原発くらし見直し委員会のメンバーも交え、1時間余りも面談。

【東海第2原発ハイロアクション・人間の鎖で廃炉をアピール(2月26日)】

## 「危険な原発はいらない!」「さよなら原発!」



「国の判断を待ってから」なんて悠長な事は言わないで即刻止めて下さい。橋本知事!

日頃澱のようにたまっている思いを「危険な原発はいらない」「再稼動は認めない」と皆さんの声と合わせて意思表示できたことは、次のステップになりました。参加者は700名だったとか。県内外の市民の人達、赤ちゃんを抱っこしたママさん、ベビーカーを押してのパパさん、小学生連れのご家族もいました。それぞれの思いを抱いて集まってきた人達がずらーりと1キロ、手をつないで。

発電所の門は堅く閉ざされたまま、人影もなし、恐らく平日だってそれは変わらないでしょう。何しろ国家機密の場所なのですから。扱うのは危険な核そのものなのですから。その証左に発電所を囲むフェンスには、同間隔で「周辺監視地域」の標識が・・・。原発は根源的に人の手には負えないもの。人と共存できないものだということを明確に顕しています。私たちは、遅まきながらそのことに気づきましたから、もう騙されないぞ・・・と思います。

老朽化した原発、再処理工場もある危ない危ない茨城県。「国の判断を待ってから」なんて、そんな悠長なことを言わないで、即刻止めて下さい。橋本知事さん!!

これ以上、大地を空を海を汚さないで。子ども達の命を脅かさないで。廃炉の願いは、今日を生きていく多くの生活者の叫びなのです。(取手市 松浦)

「今、声をあげないでどうするのですか」皆で意思表示しませんか

埼玉、栃木、神奈川、新潟など遠くからの旗が集いみなさんの意気込みを感じます。約700人の参加、小さいお子さん連れの家族もあり心があたたかくなります。本当にご苦労様、ありがとう。

組合員同士のおしゃべりもたくさんできてお互いに元気をもらいました。福島原発の爆発で原発の安全神話は壊れ見えない放射能はこの先何十年も否、何百年もなくならずに私達を苦しめていくのに国も東電も平気で検査を終えたらどの原発も動かそうとしています。まるで国民のことは悲しいほど考えていないとしか思えません。

日本の国民が今、声をあげないでどうするのですか。世界中が日本を見ているようです。このたびの参加であちこちでの「集会」のチラシをもらいました。動いていると感じました。築30年以上老朽化して、ますますこわい東海第二原発も8月には再び動かすとか。なんとしても廃止にしたい。いろいろな場面いろいろなところで皆で「意思表示」をしませんか?

(常総市 羽田)



常総生協の供給トラックも東海村で廃炉をアピール